



高校生から市長へ インタビュー！

Q 新型コロナの影響で観光経済が落ち込んでいる中、観光産業以外で宮古島を支えていく政策や取り組みはありますか。

A 観光は重要な産業ですが、今回のコロナでよくわかったことは農林水産業が足腰が強い産業だということです。これからは高収益かつ安定した農林水産業を目指す必要があります。そのために付加価値の高い作物を生産し、加工産業の強化や、お土産品等への商品化、県内外さらにはアジアに向けて販路拡大・情報発信をしていきたい。6次産業の道は宮古にとって大変重要。地域の素材を活かした時宮古の経済は大きく伸びると考えています。

Q インフラ、教育、医療等、市の予算で今一番必要としている分野は何ですか。

A 当面はコロナ対策です。当たり前の島の経済を取り戻すために、来島者にはPCR検査にご協力いただきたい。また、先程お話しした離島ハンディについては新たな振興法で支援したい。それから医療、福祉の予算はいうまでもなく大きなシェアで確保します。投資的経費[※]としては、補助率が高く経済効果の大きい公共投資も集中的に行います。電線の地中化などインフラ整備もしっかりやりたい。それから最も重要なこととして、宮古大好きな人が育つことです。どの分野においても結局は宮古の人たちが主役でなければなりません。人材こそかけがえのない財産ですから、教育文化にはもっと力を入れたい。このようなポイントを押さえ、均衡ある効果の出る予算の執行を行っていきます。
※投資的経費…道路、公園、学校の建設など、生活の基盤となる公共施設の整備に要する経費のこと。

Q 宮古島の魅力は海以外に何だと思えますか。

A 人々の繋がりや強さと自然です。干ばつや台風など厳しい時代を乗り越えてきた人々の粘り強さと知恵、優しさは宮古の大事なアララガマ魂です。自分のことだけでなくまわりの人と共生する人間関係の濃さや、それと共に継承された文化や自然など、こういう魅力を守り伸ばしていきたいです。

Q 今後、どんな宮古島にしたいですか。

A 若い人たちが宮古に生まれてよかったと誇れるような島でありたいです。どんな困難があっても愛する故郷がある人は強い。若い人たちにとって帰ってきたくなる島、いつでも温かく迎える島でありたいと思います。

～市長から高校3年生の皆さんへのメッセージ～

私が高校を卒業した頃は情報格差もあり、寂しく不安な気持ちで島を離れたことを覚えています。高校3年生の皆さん、大いに羽ばたき、沢山のことを経験して大きくなってきてください。そして力をつけて宮古に帰ってきてください。あなたたちが宮古の将来を担っています。よろしく頼みます。

★宮古総合実業高校商業科3年生の皆さん、下地康隆先生ありがとうございました！★

Q 高校時代はどんな生徒でしたか。

A 引込み思案で人見知りでした。気の合う人同士で集まってスポーツで競って遊んだり、楽しい思い出が沢山あります。青春を共に過ごした友達は大きな財産ですね。

Q 高校時代に彼女はいましたか。

A 片思いだったのかな、僕はガールフレンドだったと思う。相手は沖縄本島の高校に行っていたので、遠距離でした。相手が彼氏だと思っていたかはわかりませんが、恋する人はいました。

Q 政治に関わっていきたくと思ったきっかけは何ですか。

A 学校を卒業後、公務員になりましたが、いわゆる転勤族で山中のダム現場や東京など様々な場所を転々としていました。たまたま国の仕事が宮古であり、地下ダム事業に携わった際に先輩方にご指導いただいて政治力を借りたりする中で、政治に興味を持つようになりました。

Q 一番力を入れていきたい政策は何ですか。

A 「ぶからず、うむやす、うやきみゃーく(幸せ、安心、繁栄の宮古)」として誇れる島、安心できる島、島にいて生活が安定することが政治の基本と考えています。そのために、経済面では渡航費や物流コスト等の離島ハンディを私たちの世代で解消したい。それと一つの時代も底力のある経済地盤を作り雇用や所得を安定させること。そして島の歴史や文化を大切に、島の人達が主役となる豊かな宮古島を実現したいです。

Q 建物がどんどん増え、森林が減っているように感じますが、自然を守りながらの島開発を今後どのように考えていますか。

A 素晴らしい質問ですね。宮古の財産である美しい自然を守るためには、森林を守り増やす必要があります。そのために行政は将来に渡る土地利用計画をし、保全と開発利用の方法を今のうちに作らないといけません。開発、経済振興、まちづくり、土地利用、ゾーニング[※]といった方向性をしっかり整えていこうと思っています。
※ゾーニング…商業地区、住宅地区など場所ごとに土地の用途を分けること。

Q もし宮古島が医療崩壊した場合の具体的な政策はありますか。

A 鋭いね。今回宮古は感染が拡大し大変残念なことになりました。しかし幸いにも県、県立病院、県医師会、自衛隊等にご協力いただいた成果がでてきており、大変感謝しています。医療崩壊は起こさないことが基本です。しかし緊急の場合は今回のように関係機関の協力をいただきたい。これからは離島の医療を強化するとともに、このネットワークを今後もずっと残していく必要があります。コロナを乗り越えれば、宮古のコロナ対策は重要なモデルになると考えています。島の人々の命を守るために今後も取り組んでいきたいです。

